

セルゲイ・ソビャーニンモスクワ市長の街作り

モスクワ市長セルゲイ・ソビャーニンは、2010年の就任以降、ロシアの首都モスクワの大規模な都市再生プロジェクトを主導してきた。その目的は、旧ソ連時代からのインフラの老朽化や、急速な経済発展に伴う都市機能の逼迫に対応し、モスクワを21世紀の世界都市にふさわしい場所へと変革することである。ソビャーニンは就任直後から積極的な改革を進め、西側諸国からの経済制裁が続く中でも、数々の大型プロジェクトを打ち出してきた。彼の都市開発への情熱は、市民の生活向上だけでなく、モスクワの国際的地位を強化する狙いがある。



1. 人中心の街作り

ソビャーニンの改革の基本理念は、「人中心の街作り」である。この理念には、都市空間を単なる生活の場としてだけでなく、社会的つながりや市民意識を強化するための空間として再設計するという視点が根底にある。特に、近代化が進む中で、都市における「人間らしい暮らし」を守ることに重点を置いており、共同体の希薄化を防ぎ、全ての市民が居心地よく暮らせるような都市を目指している。

1. 1. 歩行者天国の整備

モスクワの中心地における歩行者専用道路の整備は、ソビャーニンの都市改革の象徴的な施策である。これらのエリア、特にトヴェルスカーヤ通りやニキーツカヤ通りでは、車の通行を制限し、広々とした歩行者専用空間を提供した。この改革は、都市住民にとって、ただ移動のための道路ではなく、リラックスできる社会的な場を提供することを目的としている。歩行者天国は、市民が快適に散策できる空間を創出し、結果的に人々の交流を促進する。週末には様々なイベントが開催され、街が一つの共同体として活気に満ち、地域住民の絆を深める機会が増えた。観光客もこれらのエリアを訪れることが多く、市民と観光客との自然な交流の場ともなっている。

歩行者天国の整備は単に物理的な空間の改修にとどまらず、都市生活における「人々のつながり」を強化するための社会的な施策でもある。車中心の街づくりから、歩行者や自転車利用者を優先する街づくりへと転換し、市民が積極的に街に出て、互いに顔を合わせる機会を増やすことができるようになった。

1. 2. 公園や広場の再整備

ゴーリキー公園やズヴェニゴロドスキー公園など、多くの公園や広場が再開発されたことも、ソビエター改革の重要な部分である。これらの場所はかつて、ただの「自然空間」としての役割を果たしていたが、現在では市民の文化的・社会的な活動を支える場へと変貌を遂げている。特に、ゴーリキー公園は、サイクリングやランニング、無料のトレーニング場、カフェ、アートギャラリーが整備され、観光地としても人気のスポットとなった。



再整備された公園は、ただ単に美しい景観を提供するだけでなく、市民が健康的で積極的な生活を送るための場を提供する。このような空間は、物理的な健康だけでなく、社会的健康をも促進する。公園での出会いや、無料のトレーニング場での交流は、住民同士のつながりを強化し、共同体意識を高める重要な要素となる。つまり、都市の再開発は、個々の市民の生活の質を向上させると同時に、社会的な絆を再構築するための手段として機能しているのである。

1. 3. 歩道の拡張とバリアフリー化

歩道の拡張とバリアフリー化は、ソビエター改革における「人中心の街作り」を支える重要な要素である。モスクワの街は、これにより高齢者や障がい者、ベビーカーを押す親など、すべての市民にとって以前より移動しやすく、安全な場所となった。従来、モスクワでは狭い歩道や不便な歩行環境が問題となっていたが、これらの問題が解決されることで、市民は自由に、そして快適に街を歩くことができるようになった。

バリアフリー化は単に物理的な障害を取り除くだけでなく、社会的な分断を防ぐ役割も果たしている。すべての市民が平等に都市空間を利用できるようにすることで、障がい者や高齢者も、社会活動に積極的に参加できる環境が整備される。これにより、都市空間は「誰もが排除されない場所」となり、社会的な包摂が進む。街はより開かれ、包括的な社会を築くための基盤が強化されるのである。

しかし、すべての不便さを排除するわけではない。例えば、モスクワの駅には依然として階段が多く、車椅子利用者や足の不自由な人々にとっては不便を感じることもある。しかし、こうした不便さが、逆に人々の助け合いを促進する場となっている。階段での手助けを必要とする人々の姿は、街の「つながり」を育む一因となり、モスクワのコミュニティにおける絆を深める。

このように、ソビエターの改革は、物理的なバリアの解消とともに、社会的なつながりや共生を促進する「人中心の街作り」を実現しているのである。

2. 交通インフラの革新

モスクワの交通インフラ改革は、ソビエターの政策の中心的な課題であり、都市の効率

的な移動を実現するために多くの革新が導入された。ソビエト連邦の下で進められた改革は、渋滞問題の解消、公共交通機関の拡充、そして市民の移動の利便性向上を目的としていた。

2. 1. 地下鉄拡張プロジェクト

ソビエト連邦のもとで、モスクワの地下鉄網は急速に拡張された。特に郊外と市内中心部を結ぶ新たな路線が次々と開業し、モスクワの交通事情は大きく改善された。2011年から2023年にかけて、地下鉄の総延長は150km以上増加し、30以上の新しい駅が開業した。この拡張により、車を使わずに通勤する市民が増え、交通渋滞の緩和に寄与している。また、地下鉄は非常に経済的で、どこへ行っても運賃は54ルーブル前後で、手軽に利用できる点も市民にとって大きな利点となっている。地下鉄の利用拡大は、都市全体の自動車依存を減らし、温暖化ガスの排出削減、エネルギー消費の効率化にもつながる。公共交通機関を利用することで、個々の車両が排出する二酸化炭素や有害物質が削減され、都市の空気質改善にも寄与している。

2. 2. 新バスレーンと電子チケットシステム

市内の主要道路には、バス専用レーンが導入され、バスの運行効率が格段に向上した。これにより、渋滞の中でもバスがスムーズに走行できるようになり、定時運行が可能となった。さらに、スマートフォンを利用した電子チケットシステム「トロイカ」が普及し、市民の移動はより便利になった。このシステムでは、地下鉄、バス、トラムといったさまざまな公共交通機関を統一した料金システムで利用でき、待ち時間やチケット購入の手間を大幅に削減した。トロイカカードは、スマートフォンにアプリとして入れることができ、便利で効率的に使えるようになっている。



2. 3. 交通渋滞緩和のための数学的アプローチ

モスクワの交通渋滞は深刻な問題であり、その解決には革新的なアプローチが必要とされていた。そこで、ソビエト連邦市長は数学者や交通工学の専門家たちと協力し、渋滞緩和のために数理的なモデルを導入した。数学者たちは、交通流の最適化やシミュレーション技術を用いて、信号のタイミング調整や道路の設計を改善した。具体的には、交通信号が動的に調整され、交通量に応じて信号の長さが最適化されるようになった。これにより、車両の流れがスムーズになり、渋滞が大幅に緩和された。また、交通フローをリアルタイムで監視し、混雑予測を行うシステムが導入され、市民に渋滞を避けるための情報提供が行われた。数理的アプローチは、交通管理システムの効率化だけでなく、モスクワ全体の交通網の最適化を実現し、市民の移動を快適にした。信号の待ち時間が減ることは、人々の時間の節約、ストレスの予防、アイドリングによる環境への悪

影響の軽減、焦りや不注意による交通事故のリスク軽減にも役立っている。

3. モスクワの再開発プロジェクト

ソビエト連邦の都市再開発プロジェクトは、モスクワを現代的な都市に生まれ変わらせ、歴史と未来を融合させることを目指している。彼の改革は単なる新しい建物や商業施設の建設にとどまらず、都市全体の機能性や景観、住民の生活の質を向上させることに重点を置いている。モスクワの再開発には、環境との調和や歴史的な遺産の保護が重要な課題となっており、具体的なプロジェクトがいくつかある。

3. 1. ザリャジエ公園

ザリャジエ公園は、モスクワ再開発の象徴的なプロジェクトとして 2017 年に開園した。この公園は、旧ソ連時代の「ホテル・ロシア」の跡地に位置し、都市と自然が融合した空間として設計されている。公園内には温室や空中庭園が整備され、モスクワ川の美しい景観を望むことができるエリアも多く、市民や観光客が自然を身近に感じることができる。文化イベントやコンサートを開催する野外ステージもあり、都市の中で多彩な活動が繰り広げられる。緑地の増加と都市環境の改善が目指されており、特にモスクワ川に面した部分は、都市の中でのオアシス的な役割を果たしている。

しかし、この公園から望むことのできる、豪華な高層アパート群もまた注目される。これらのアパートには、ロシアのエリート層や政府関係者、著名な芸能人などが住んでおり、一般市民には手が届かない存在となっている。このことは、都市の中で階級社会を意識させる一因となっている。公園が多くの人に開かれたリラクゼーションの場を提供する一方で、その周辺にそびえる豪邸群が一部の特権的な階層を象徴し、社会的な格差を感じさせることがある。

3. 2. モスクワ・シティの発展

モスクワ西部に広がるビジネス街「モスクワ・シティ」は、急速に発展し、ロシア経済の象徴的な場所となっている。高層ビル群には国際企業や国内大手企業が多数拠点を構え、経済活動の中心地として重要な役割を果たしている。中でも、フェデレーションタワーはモスクワで最も高いビルで、その高さ約 373 メートルが都市のスカイラインに新しい風景を加えている。これらの建物群は、モスクワの近代化を象徴し、商業・経済の重要な拠点として機能している。

2014 年の経済制裁以降も、この地域は着実に発展を続けている。商業施設や高級ホテル、レストランが立ち並び、経済の活性化を支えている。企業のオフィススペースの需要も増加し、モスクワ全体の経済にも良い影響を与えてい



る。また、ショッピングモールや飲食店が集まり、ビジネスマンや観光客にとって魅力的なスポットとなっており、モスクワの商業・観光業における重要な役割を果たしている。

ソビャーニンは、モスクワ・シティの発展を積極的に支援し、モスクワの国際的な競争力を高めるための施策を実施した。彼のリーダーシップの下で、都市のインフラが改善され、モスクワ・シティは世界的なビジネスハブとしての地位を築いている。

モスクワ・シティの発展は、単に新しいビルが立ち並ぶことにとどまらず、ロシア経済を支える重要な基盤となっており、モスクワの都市計画の中でも重要な位置を占めている。都市再開発の一環として、経済的・社会的な効果をもたらすプロジェクトであると言える。

4. 市民の反応と評価

ソビャーニンの改革は、モスクワのインフラ整備や都市の美化に多大な成果をもたらしたが、市民の反応は一様ではない。多くの市民は、改善された公共交通網や整備された歩道、公園の再開発に歓迎の意を示している。特に、地下鉄網の拡張やバス専用レーンの導入、歩道のバリアフリー化など、日常の利便性が向上したことは、多くの人々にとって喜ばしいことである。これにより、通勤のストレスが軽減され、街がより住みやすくなったという意見が多い。一方で、再開発による問題も浮上している。

特に、歴史的建物の取り壊しや再開発による立ち退き問題は、文化的な面での反発を招いている。多くの市民は、伝統的な建物が商業施設や高層ビルに変わることに對して抵抗感を持っており、歴史的な景観や文化財の保護に対する懸念が広がっている。旧ソ連時代の建物や文化的価値のあるエリアが開発によって失われることに對して、特に長年その地域に住んでいた住民からは批判の声が多く上がっている。また、立ち退きに伴う賃貸契約の変更や、再開発による家賃の高騰が、特に中低所得層に大きな負担となっている。元々の住民が移転を余儀なくされるケースが増え、これに対する不満も根強い。

さらに、地下鉄や公共交通機関の整備に関しても、一定の不満が存在する。地下鉄は確かに便利になったが、古い駅や設備の改善が進まず、特に子育て世代や高齢者にとっては不便を感じる部分もある。たとえば、駅の階段が多かったり、扉が重かったりすることが指摘されており、バリアフリー化が進む中でも、実際に利用する市民からは改善を求める声が聞かれる。特にベビーカーを押す親や、高齢者にとっては、移動が困難な場合があるといった不満も見られる。

全体的に、ソビャーニンの改革は都市の近代化を進めた一方で、社会的格差を助長する可能性があるとも指摘されており、特に新しい高層ビルや商業施設の建設が一部エリート層の特権的な空間を生み出すことに對する反発も少なくない。市民からの賛否が分かれる中で、これらの改革がどのようにバランスを取りながら進められていくかが、今後の重要な課題となる。